

会員各位

“おくすり手帳”の発行について

会長 全田 浩



患者への情報提供の推進は医療全体の流れです。薬剤師業務も狭義の調剤から患者へ薬の情報を提供し服用の意義・注意事項を理解していただくことによって適正使用を推進する業務へと拡大しています。

医療情報の提供は、医療従事者の努力とともに社会の強い要請を背景に、行政面でも医療法や薬剤師法の改正により推進される一方、診療報酬で薬剤管理指導料や薬剤情報提供料として評価され、また、調剤報酬では主要な項目に位置づけられています。特に平成12年度の調剤報酬改定では“おくすり手帳”による情報提供が初めて認められました。

患者にとって薬の情報は、覚えにくい医薬品名、複雑な用法・用量や不安な副作用など、口頭での説明だけでは正しい理解が得られない場合があります。文書を手渡すことで、ある程度は解決されますが、一片の紙では、すぐになくしてしまう、バラバラになってしまう等の欠点があります。

この点、“おくすり手帳”は経時的に情報が整理され、患者の手元で一元管理できるメリットがあります。また、医療機関相互の連携にも有用です。

“おくすり手帳”は10数年前の登場以来、多くの薬剤師によって創意工夫され、活用されてきていますが、病院、診療所では必ずしも積極的に利用されてきたとは言えません。

そこで、日本病院薬剤師会では、薬剤管理指導料に退院時服薬指導加算が新設され、この際に患者に渡す文書は“おくすり手帳”でもよいことになったことを契機として、“おくすり手帳”の普及を図ることに致しました。その一環として、「退院時服薬指導」業務に対応した“おくすり手帳”をこの度新たに企画し、発行しました。

退院時服薬指導を出発点として、この“おくすり手帳”を積極的に活用していただき、医薬品の適正使用の推進にお役立て下さい。

1. “おくすり手帳”の利用法

この“おくすり手帳”は、退院時の情報提供を出発点として、患者による医薬品情報の一元管理、および医療機関と保険薬局の相互連携による医薬品適正使用の推進を目的としています。

退院時服薬指導の際に、“基本情報”、“入院時のあなたのおくすり”と退院後のご注意等を記載し、患者にお渡し下さい。また、その際、“おくすり手帳”のメリットを伝え、有効な活用の仕方を説明して下さい。

なお、入院時に他の“おくすり手帳”を持参された患者には、その“おくすり手帳”を継続して使用いただき、患者が何冊もの“おくすり手帳”を持つことは避けて下さい。

2. 日病薬企画・編集“おくすり手帳”の特徴

- ① 退院時服薬指導加算に対応している。
- ② 入院中に使われた主な薬剤の情報を記載する欄を設け、入院中に使用された薬の情報が患者自身に、また他の医療機関、保険薬局に提供できる。
- ③ 医療機関の記載欄と保険薬局の記載欄を左右見開きに配置し、相互の情報交換が行いやすいように工夫している。
- ④ 調剤報酬の「薬剤情報提供料1」を算定する要件を満たしている。
- ⑤ 臨床検査値の記録欄を設け、経時的に患者の状態が確認できる。
- ⑥ 医療機関、保険薬局からの情報だけでなく、患者が自由に書けるメモ欄を設け、患者が自ら健康に関する情報を整理し、一元管理できる。
- ⑦ A6判、60ページで携帯しやすい。

3. 各項目の特徴と記載事項

1 基本情報

患者の基本情報のほか、入院時における生活習慣を記載して下さい。
 入院中に生活習慣について指導した内容で記載が必要な事項は「入院時のあなたのおくすりと退院後のご注意」欄に記載して下さい。

基本情報		アレルギー歴 アレルギー 食物アレルギー 薬物アレルギー	
年 月 日 記載	性別 <input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女	主な既往歴	
ふりがな 姓 前 (男 女) 生年月日 年 月 日	住所 〒 TEL	常用の薬剤・薬類食品	
職業・学歴 職業歴	日常生活上の習慣 タバコ 飲酒 喫煙 運動習慣 その他()	生活習慣上の嗜好 (人物等) <input type="checkbox"/> 酒飲みに <input type="checkbox"/> 肉食について <input type="checkbox"/> 野菜について <input type="checkbox"/> 運動について <input type="checkbox"/> 睡眠について <input type="checkbox"/> 伊勢について <input type="checkbox"/> 睡眠について <input type="checkbox"/> その他	

2 入院時のあなたのおくすりと退院後のご注意

入院日 年 月 日	退院日 年 月 日
入院のきっかけとなる病気や原因	
入院中のアレルギーの有無 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有	入院中の副作用の有無 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有
病状名	担当薬剤師
住 所	TEL

2 入院時のあなたのおくすりと退院後のご注意

薬剤管理指導科の退院時服薬指導加算に必要な項目の他、外来診療となった際に、外来担当の医師、薬剤師による薬剤師への情報提供欄として活用して下さい。
 「入院中使われたあなたのお薬」欄には、退院時には使用されていない薬も含めて、入院中に使われた主要薬剤について、特に情報提供が必要な薬を選んで記載して下さい。

3 診療メモ、薬局メモ

医療機関と保険薬局との情報交換を想定して作成しています。
 まず、医療機関では、処方変更や薬についての説明内容で特に重要な事項等を記載し、保険薬局では薬の内容や服薬指導した事項等を記載して下さい。
 薬局メモは院内調剤の際にも薬剤師が利用できます。

診療メモ		薬局メモ	
年 月 日	診療科	年 月 日	薬局名
氏名	診療内容	処方された薬剤	お薬の内容
処方された薬剤	服薬指導	お薬の内容	

臨床検査値の記録	
検査項目	検査結果
検査項目	検査結果
検査項目	検査結果
検査項目	検査結果
検査項目	検査結果
検査項目	検査結果
検査項目	検査結果
検査項目	検査結果
検査項目	検査結果

4 臨床検査値の記録

病態の把握に必要な臨床検査値等を経時的に記録する欄です。検査値を知らせることにより患者自身が記録することもできます。
 なお、基準値は検査方法によって異なることから、臨床検査を受けた医療機関の基準値を書き込んで下さい。

健康記録	
患者が健康に関する記録等を自由に記録できます。	

5 健康記録

患者が健康に関する記録等を自由に記録できます(血圧、体重の変化、一般用医薬品、健康食品など)。

ご利用医療機関	
医療機関名	TEL
ご利用保険薬局	
保険薬局名	TEL

6 ご利用医療機関、ご利用保険薬局

利用した医療機関、保険薬局を患者自身が記録する欄です。

4. 申込方法

〒101-8421 東京都千代田区一ツ橋 2-6-3(一ツ橋ビル)
 TEL 03-3265-7751 FAX 03-3265-7769 (株)じほう 販売局まで